

マタイの福音書 17章 19-20節

からし種ほどの信仰

そのとき、弟子たちはそっとイエスのもとに来て、言った。「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。

はじめに

ヘブル人の手紙 11:6 「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。」、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。」この聖書の箇所は二つの大切な事を教えています。一つ目は、信仰が神様に受け入れられる為に絶対的に必要なものだということ、二つ目は、信仰とはただ神様の存在を信じているという意味だけではなくて、神様の約束も信じているということだということです。

1. 救われる為に大きな信仰は必要ではない。

マタイ 17:20

「イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。」イエス様は信仰をからし種に例えている意味は、最も小さい種ほどの信仰でも、それによって神様の力が大きく働くということです。誰も自然にキリストの約束を信じられる人はいません。イエス様は言われました。「私を信じる人は決して死ぬ事はありません。これを信じますか？」それを信じるのは不自然であると同時に人間の能力だけでは不可能な事ですが、神様の超自然的な働きによってこれを信じる信仰が賜物として与えられるのです。

マタイ 13:31-32 「イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、どんな種よりも小さいのですが、成長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」イエス様はこの聖書の箇所でも、からし種の話を使って神様の御国の働きをそれと同じだと教えました。最も小さい種なのに、大きく成長して鳥たちがその枝の上に巣を作れるようになるというたとえ話でした。

エペソ 2 : 8-9

2:8 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行ないによるものではありません。だれも誇ることをないためです。」この箇所で言っているのは、人間の働きや能力だけで魂の救われる信仰を持つ事は出来ないということです。誰も神様に対して誇る事が出来ないように、神様はわざとそのような定められました。この信仰を頂く人は誰でも、最初に種として信仰を与えられています、それによって

救われています。その後でその種が成長したら、大きく強い信仰になります。でも、救われる為に大きい強い信仰が必要なわけではありません。

どのようにしてこの信仰が与えられるかを見てみましょう。話の流れを簡単に説明しますが、イエス様はこの前の部分で子どもの救いを求めて来た父親に答えて、「信じるなら不可能な事は何もありません」と言いました。

マルコ9:23

「するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」9:24 するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

この祈りによってこの人とその子どもも救われました。自分に足りないものを認めて、信じたいが信じられないので助けて下さい、と素直にイエス様に祈ればイエス様は答えて下さいます。神様に近づく第一歩はへりくだって自分の弱さを認める事です。「神は高ぶる者を退けてへりくだる者を助けられる。」とある通りです。

2. 山を動かす為に大きい信仰は必要ではない

マタイ17:20

17:20 「イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。」

イエス様も含めて、聖書の中で誰も実際に山を動かしたという記録はありません。聖書では多くの場合、「山」が意味していることは、人間の力だけで解決出来ない困難です。人によってその困難の形は違いますが、前進出来ない、人生が行き詰まりになりそうな困難です。そこで神様が働いてくださり、不可能を可能にして道のない所で道を作って下さいます。

イザヤ49:11 「わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。」

私たちは、自分で作ってしまった山と勘違いしてしましますが、神様はこの箇所での山々が「私の山だ」と言っています。イエス様の信者は究極的に行き詰まることは不可能です。ある実体験についてお話をすれば分かりやすくなるでしょう。

私の神学校の創立者の証です。その人はスコットランド出身の人でしたが、神様の導きの中で自分の国を出て英国のリバプールに行きなさいと言われていたと信じていましたが、その時には色々な事情を考えてそれが不可能だと強く思っていました。たとえば、婚約者がいるし、お金もなく誰とも知り合いの人はいない国に行くのは無責任な事と考えていました。祈りの中でその問題が次々と山のように見えて来て、ちょうどその時に、聖書のイザヤ49:11の言葉を通して神様に明確に示されました。「わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。」 祈りの中でその御言葉が示されたその瞬間に初めて気が付いた事は、自分の山だと思っていた困難は全て神様の山なのだという事でした。神様はすべての山のような困難を道にして下さるのです。それを信じて彼は英国へ行き、夫婦で神学校を作って世界中に多くの宣教師を送りました。

私自身の経験を証しましょう。政治犯として刑務所の中で救われて、まだクリスチャンになって一年半しか経ってない時に、宣教師として日本に行くように神様に言われましたが、犯罪歴のある人は日本に入るのはほとんど不可能だと言われていました。その上に学歴もなく何とも資格はないですし、もちろん、語学の経験もありませんでした。誰の目から見ても不可能な話でしたから、入国許可書であるビザの申し込みをする事自体が時間の無駄と言われそうでしたが、申し込んだ後で日本大使館の方からまだ返事はないうちから、神様は聖書の言葉を与えて下さいました。

黙示録3:8 「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

日本に来てからも、この35年間の中でも繰り返してこのことを経験しています。一日中話しても、言い尽くせないほど神様のこの導き方を経験しています。最近、賛美でよくこう歌われています。

「God will make a way where there seems to be no way. (神様は道の無さそうな所で道を作って下さる。)」もちろん、自分勝手な道を歩みたい時にこれは経験出来ません。神様に全てを委ねて、あなたの道で導いて下さい、と心から祈っている時だけです。次の聖書の言葉通りです。

箴言3:5-6 「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

まっすぐな主の道は楽な道ではありませんが、迷ってしまう事はありません。迷いそうな時があっても、主が力強い御手によって戻して下さいます。

これを経験する為に、大きい信仰が必要ということではなく、からし種ほどの小さい信仰でも経験出来ると言われているのです。

3. 信仰によって神様の栄光が表される。

ローマ4:20-21

4:20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、4:21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。

今日のメッセージの始めに、信仰がなく神に喜ばれる事は出来ないと言う聖書の言葉を見ました。その理由の一つがここに書いてあります。神様に造られたすべてのものの最大の目的は、神様の栄光を現わすことです。造られたすべての中で私達人間だけが神様に似せられて造られたので、他の何ものよりも、信仰によって神様に栄光を帰す事が出来ます。もちろん、私達の最大の喜びも自分の存在の最大の目的の為に生きています。イエス様が生まれる1000年ほど前から、次のように預言されていました。

詩編40:8 「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

その喜びは、唯一私達の心を完全に満たし、完全な満足を与えてくれるものです。神様に喜ばれる為に生きています時以外は心が満たされないので、人はこの世の物で満足を求めますが、何を手に入れても、満たされないままでむなしさを感じるのはそのためです。人間の心はこの世の物で満たされる事が不可能なのです。世界的に有名な物理学者であり哲学者であるブレーズ・パスカルは次の言葉でこれを表現しました。「すべての人間の心には神様の形をした空白がある。」この意味は、神様しか人間の心を満たすことが出来ないということです。

ヨハネ15 : 11 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

この聖書箇所イエス様は完全な喜びを私達に与えて下さる約束をしています。他に誰も与える事が出来ないものです。その喜びを体験したら、すべてを乗り越える力になります。

ヘブル人への手紙 12 : 2 「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」 最大の喜びが力になって、イエスは十字架の拷問による死刑でも忍ぶ事が出来ました。他にも大切な事がこの聖書箇所にあります。イエス様は私達の信仰の創始

者であり、完成者でもあるということです。信仰を与えて下さるのもイエス様ですし、それを最後まで責任を持って完成して下さるのもイエス様なのです。

Conclusionまとめ

コリント第一 13 : 13 「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」 永遠に私達から、取り上げられない物は3つだけです。その中の一つは信仰です。これが言葉で言い表せないほど大切な賜物です。